

## ■ 模擬店や多彩なアトラクションで星槎祭にぎわう

10月8日、星槎国際高等学校の学校祭「第18回星槎祭」が、本母校体育館を会場に開催されました。

今年のテーマは、「飛竜乗雲（ひりゅうじょううん）」。「一人ひとりの力を集めて、最高の時間をつくる意味とのことで、開会式では生徒会長の鎌塚悠貴さんが、「皆さ

んの協力のおかげで学校祭を迎えることができました」とあいさつ。

会場では、腕相撲スタンプラリー＝写真＝などのアトラクションが行われたほか、やきそばやスープカレーなどの模擬店、頼城地区住民による「地域のお店」などが並び、にぎわいを見せていました。



## ■ あるけあるけ運動など、多くの市民が参加

「体育の日」の10月9日、市民ラジオ体操会兼あるけあるけ運動とスポーツ少年団交流会が、なまこ山総合運動公園をメイン会場に開催されました。

市民の健康・体力づくりを目的とした毎年恒例の行事です。このうち、あるけあるけ運動には、4キロと8キロの2種類のコースに合わせて約130人が参加。総合運動公園から、4キロコー

スは道の駅、8キロコース＝写真＝は旭ヶ丘公園までを往復するルートで行われ、参加した皆さんは好天の下、紅葉が見ごろとなった公園の風景を楽しみながら心地よい汗を流していました。

また、スポーツ少年団交流会には、野球、サッカー、ソフトテニスなど、近隣市町からも参加して盛大に行われました。

## ■ 青年会議所の大会フォーラムでまちづくり講演会が開催される

公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会2017年度道央エリア大会が10月15日、市民会館で開催され、市民も対象に「稼ぐまちが未来を創る！フラノマルシェから学ぶまちづくり」と題したフォーラムが行われました。

フォーラムでは、富良野市の「フラノマルシェ」を運営するふらの

まちづくり株式会社社長の西本伸<sup>のぶ</sup>あき<sup>あき</sup>さんが、施設を造った経緯から現在までの状況を講演。成功に至った要因の一つとして、「地域住民が楽しめる空間であることを最大の目的として、行政依存ではなく、官民協働で進めたこと」などと強調。参加した市民の皆さんは真剣に耳を傾けていました。



## ■ 時には笑い、時にはしみじみと、朗読の魅力味わう



10月15日、声のボランティアかりんとう主催による「朗読の集い」が、市立図書館視聴覚室で開催され、元NHKアナウンサーで、フリーとなって以降は、全国各地で朗読公演を行っている山田誠浩さんが今年も駆けつけました。

当日は、市内外から約50人が参加。『五十鈴川の鴨』（竹西寛子作）

と『ロストターン』（ブルック・ニューマン作、五木寛之訳）を山田さんが朗読したほか、かりんとうメンバーが『ゲートボールと天国の門』（群ようこ作）を披露。集まった方々は、しみじみとしたり、時にはユーモアな語りに笑いを漏らしたりと、朗読の魅力をたっぷり味わっていました。